

犬山の児童合唱曲作詞



さん(〇)は「犬山がすごく良い市だと感じられる歌」と感激していた。この歌の歌詞制作委員を務めた今井小の伊藤寿啓教諭(左)は「児童

市教育委員会は、児童の思いやりや仲間意識を高めることが、いじめなどの問題解消につながることを考え、健全な心を育てる取り組みとして歌を作ることを決めた。

校音楽会でお披露目された。児童たちは、郷土の名所や自然をちりばめた歌詞を、さわやかな歌声で保護者に贈った。

犬山市の小学4年以上の全児童が作詞に携わった歌「未来に向かって～明日に輝く犬山の子どもたち」が、今月の市小学



午後の部の最後に「未来に向かって」を歌う児童たち＝犬山市の市民文化会館で

の思いやりや仲間意識を高めることが、いじめなどの問題解消につながることを考え、健全な心を育てる取り組みとして歌を作ることを決めた。

市内全十小学校の教諭が集まり、今年三月に「犬山」の歌制作委員会」を組織。児童たちが主体的に制作に関わり、未来への希望を持って、歌い継がれる一曲を目指した。

本年度早々、四年以上の全児童二千五百九十九人から歌詞の候補を集め、国語教諭らの歌詞制作委員が言葉を選んで一つの詞にまとめた。

六月に入ると、楽曲制作委員の音楽教諭らがリード編の二曲を作った。作詞に関わった児童による総選挙を全校で実

郷土の自然、名所ちりばめ

施した結果、さわやか編が千八百四十二票、リード編が三百七十七票を獲得し、さわやか編が選ばれた。

記者の目

十二月六日に開かれた音楽会は、一九五四(昭和二十九)年から続く伝統行事。四年生を中心に八校の七百三十六人が、会場の市民文化会館に集まった。午前と午後の部で、それぞれ発表を終えた四校がステージへ。息の合った元気いっばいの声で「未来に向かって」を三番まで披露した。歌い終えた児童たちは満足そうだった。羽黒小四年の藤井勇樹君(〇)は「入鹿池」が歌詞に採用された。「少し長くて歌うのが難しいけれど、名所や季節が頭に浮かぶ」と、とても気に入った様子。「緑の山」が採用された「しみ」に背を丸め帰途に犬山東小四年の仲村春菜(左)は、(田中富隆)

未来に向かって (さわやか編)
青い空見上げれば
ふるさつを見守る白帝城が光り輝く
みんなの心つないだら
楽しいことがふくらむよ
どんなときもどんなときも夢を見て
ラララ明日に向かってダッシュ
ラララ未来に向かってダッシュ
わたしたちは同じ気持ち
胸を張って
ラララ明日に向かってダッシュ
ラララ未来に向かってダッシュ
さあ胸を張って
未来へともに進んでいこう

緑の山いだかれて
きらきらと輝く入鹿池が心和ます
みんなの心つないだら
苦しいことも分け合える
どんなときもどんなときも夢を追い
ラララ明日に向かってステップ
ラララ未来に向かってステップ
わたしたちは同じ仲間
手と手をつないで
ラララ明日に向かってステップ
ラララ未来に向かってステップ
さあ手と手をつないで
未来へともに歩いていこう

ヒトツバタゴ咲きほこる
歴史と文化の犬山の地が人を育む
みんなの心つないだら
うれしいことがあふれ出す
どんなときもどんなときも夢をもち
ラララ明日に向かってジャンプ
ラララ未来に向かってジャンプ
わたしたちはかたい絆
輝く明日へ
ラララ明日に向かってジャンプ
ラララ未来に向かってジャンプ
さあ輝く明日と
未来へともに翔(と)びたとう
光り輝く未来に向かって